

## 8 . その他の資料・情報

- ( 1 ) ワークショップの実施結果
- ( 2 ) 各計画対象校の配置図
- ( 3 ) ソフト・コンポーネント実施提案書

( 1 ) ワークショップの実施結果

## ワークショップ実施結果概要

### 1. ワークショップ実施について

調査対象校のうち、不完全校、比較的規模の大きな学校、小規模の学校、遠隔地にある学校等調査結果の比較検討に必要な一定の条件を満たす15校においてワークショップを実施した。ワークショップの参加対象者は、校長、副校長、父母会メンバー、地域住民等とした。参加者の詳細については本概要末尾に添付する。ワークショップは、参加者に学校と周辺の地図を書いてもらい、それらをもとに学校及び周辺環境の状況を分析する手法を主に用いた。以下にその結果概要を記述する。

### 2. ワークショップ実施校

省	番号	校名	実施日
Thai Nguyen	TN-1	La Hien	2002年8月26日
	TN-9	Doi Can	8月15日
	TN-16	Hong Tien	8月26日
Bac Giang	BG-8	Dong Lo 2	8月28日
	BG-8S	Dong Lo 2	8月28日
	BG-9	Hong Thai	8月27日
	BG-10	Nam Hong	8月27日
Phu Tho	PT-1	Ngoc Quan	8月21日
	PT-5	Det	8月21日
	PT-17	Ngoc Quan	8月22日
Tuyen Quang	TQ-3	Bac Muc	8月19日
	TQ-6	Phan Thiet	8月17日
	TQ-9	Y La	8月20日
	TQ-11	Yen Huang	8月20日
	TQ-15	Tam Yen	8月19日

### 3. 教育一般

#### 新学期

新学年の始まりは2002年9月5日より。但し、新カリキュラムの導入のため、新1年生のみ例外的に8月15日からの始業であった。

#### 特別教科

多くの学校で、音楽、美術、英語、体育いずれかの教科教員が配置されていることが判明した。こうした教科担当の教員がない場合には、全科教員が特別教科の授業を行うこととなっている。なお、特別教科の教員は、新カリキュラムの導入に伴い、今後増加

していくことが見込まれる。新任教員に加え、現職研修を受けて、全科教員から教科教員になるケースも見られた（TQ-9 Y La）。

#### 全日制

本来の意味における「全日制」が行われている学校は、ほとんど無かった。すなわち、生徒が午前から午後にかけて、終日学校にいるとしても、午後は正規の授業を受けているわけではなく、午前の正規授業に加え、特別の授業料を学校側に支払って補習を受けている、というのが実状であった。また、補習という側面に加え、特に都市部においては保護者が日中は家を離れているため、その間における学童保育所（デイ・ケア・センター）のような役割を果たしていることも確認された。

他方、全日制の導入が正規の形をとろうととるまいと、午前および午後ともに学校で時間を過ごすというのは、多くの人々にとって徐々に「常識」の範疇に入り、時代の趨勢となりつつあることが分かった。ワークショップを実施した学校では、教師不足さえ解消されれば、補習費を払ってでも午前、午後と終日子供を通わせてやりたい、と考える親が少なくなかった。農村部においてさえも、学校に行き勉強することの方が重要であり、今は子供に手伝わしている牛の世話（男子の仕事）や担ぎ仕事（女子の仕事）の類も、自分たちで何とかまかなえる、と発言する親が少なからずいた。

#### 教科書

教科書は、ある特定のプロジェクトにより学校を対象に無償配布されない限りは、原則、生徒による自己負担となっている。全教科の教科書をそろえた場合、1 学年あたり 5～80,000 ドンの金額となり、学年があがればあがるほど、教科書代は高くなる。

一方、学校によっては、書店や市場などではなく、学校で教科書を買わせる制度を導入している学校もあった。これにより、市場などで偽物のコピー教科書を買うリスクもなくなり、また貧困家庭出身の生徒に対しては、定価販売による利益の一部を還元し、通常より低い値段で教科書を提供することができるという。

#### 学級編成

当国における学級編成基準は 1 クラス 35 人とされているが、現場においては、単純に 35 で割られているわけではない。実際には、既存教室のサイズを基に各教室の最大収容人数を考慮し、全日制で学ぶ生徒と、2 部制のいずれかで学ぶ生徒とを別のクラスとした上で、クラス編成が行われている。

なお、同一学年で全日制と 2 部制が制度として共存している場合、全日制を選ぶか 2 部制を選ぶかは、親の意思と、追徴となる学費を支払えるかどうかにかかっている。

#### 4. 社会環境

##### 学齡期生徒の就学状況

ワークショップを実施した 15 校が属する全てのコミューンにおいて、学齡期生徒の就学率は 100%であることが確認された。

た、教育訓練省による勧告（1999 年）を受けて、初等教育レベルにおける自動進級の促進が、各校において進められている。ワークショップを実施した 15 校すべての学校で、留年者が 1 人もいないことが確認された。

##### 初等教育修了者の中等教育進学状況

初等教育修了者の前期中等学校（中学校）への進学率は、ワークショップを実施した全 15 校において、100%であることが確認された。

##### 少数民族

少数民族の占める割合は各校によりさまざまであるが、少数民族に属するか否かが、貧富の差や学校における成績の良し悪しに大きな影響を与える、といった言質を取ることはできなかった。また、住民登録上「少数民族」として登録される者でも、国語であるキン語を母語とする者も都市部を中心に存在し、また農村部においても家庭では自らの言語を母語として使用するものの、キン語を使用するのに支障の無い者がほとんどである、という事実が確認された。

##### 所得格差

所得はコミューン間、またコミューンのなかでも世帯間で少なからず格差があることが確認された。しかしながら、それが成績の差に反映されているとの言質を取ることはできなかった。

もっとも、貧困家庭出身の生徒は、主要教科の教科書しか購入することができないこと、また農村家庭出身の生徒は、現金収入の機会が限られていることから、収穫後の時期で無いと、学費や施設の維持管理費などが支払えないなどといった状況があることが確認された。

##### 通学状況

学校への通学距離は、通常 2km 以内となっている。低学年の生徒は、親がオートバイや自転車で送る場合もある。

## 5. 施設等利用状況

### 教室

通常の科目以外に、音楽や美術などが教科教員ないし（存在しない場合は）全科教員によって行われているが、多目的室などといった特別の教室で行われている学校はなく、ワークショップを実施した全ての学校において、音楽や美術の教員が、各教室に自ら赴いていることが確認された。

普通教室を音楽の授業のために使うことの問題として想定される点は、オルガンやカセットデッキなどの機材の運搬が面倒であることと、音や生徒の歌声が近隣教室の授業に影響を与える可能性のあることの2点である。運搬に関する問題については、特に分校や分教室など長距離の移動でない限りは、問題ないことが確認された。他方、音や歌声の近隣教室への影響に関しては、うるさくて生徒が授業に集中できないことがある、とのコメントが数校から寄せられた。

その他、教室における一般的な問題として、雨漏りの問題や、明るさの問題、夏に暑く冬に寒いといった問題、冬に砂塵が舞い込んでくるといった問題が挙げられた。

### 教員室

教員室は、休み時間および始業・終業時間前後における休憩用または教員会議用に用いられており、教員がそこで授業の準備や、生徒の宿題やテストの採点などを行うことは稀である（授業の準備や宿題およびテストの採点は、教員が各自家に持ち帰ってやるものであるとされている）。教員室には、今回の基本設計調査団のように来客があった場合の来賓室となることが多いため、そこで教員が日常的に仕事を行うのは難しいとの声も多くあがった。

なお、分校で教えている教員が本校の教員室を利用するのは、基本的に週に1回の会議および月に1回の給与受け取りの時だけで、それ以外のときは、直接分校に通勤する。分校には、大概教員室が無いので、教員は直接教室に向かい、休み時間も教室で過ごす。

### 焼却所

焼却所については、学校敷地内の裏庭に穴を掘って造られた簡易なものがほとんどである。ゴミ焼却用の穴が灰で一杯になった場合は、そこを埋めて別の穴を掘ることが習慣化されている。

## 6 . 教具・教材

教材・教具は、各学校が指定のフォームに必要な教具・教材とその数量を記入した上で、BOET（郡教育訓練事務所）に提出し、DOET（省教育訓練局）により認可のおりたものが供与される、という仕組みとなっている。ワークショップを実施した学校においては、都市部・農村部における違いにかかわらず、おしなべて多くの学校で、必要とされる教具および教材が揃えられていた（電子オルガンについては、ある学校と無い学校とが存在した。独自に購入した学校もあれば、BOETを通じ供与された学校も存在する）。

教具・教材については、各学年の全クラスが同じ教具・教材を取り揃えなければならないということであれば、不足であることは否めないものの、一般的に各教具・教材の稼働率は、教員自身によるデモンストレーションを観察する限り、それほど高いとも言えず、既存の教具・教材を適切に管理し、各クラスの教員による共有・共用をうまく図れば十分であると考えられる。なお、教具ならびに教材は、本校のみならず分校にも配布されている模様である一方、分校には往々にして教材を保管する部屋やキャビネットが存在しないことから、これを本校で管理することが常態化していることが確認された。

この他、DOETにより提供される、既製品の教具・教材以外にも、教員自ら工夫して、手作りの教具・教材などを作っている学校も少なからず存在した。

## 7 . 教材室

教具・教材は、図書とともに「図書兼教材室」において保管、管理している学校が多く、それぞれの教員が必要に応じて借り出しの手続きを行っている。その際、週末に借り出したものを次の週に使用しその週末に返却するのが一般的である模様。教材室は、吊り掛け式のポスター教材が、大半のスペースを占めている。

教材室は、教員室および図書室を兼用している学校もあった（例えば、PT-17 Ngoc Quang）。なお、図書室は生徒よりもむしろ教員が授業の準備のために図書を借り出すための部屋として考えられている。

## 8 . 便所

便所は、ワークショップを実施した学校のうち大半の学校で、教員・生徒共用であることが多かった。また、それらの便所のうち、小使用の便所に関しては、屋根や戸のない簡素なものが大半であった。

こうした状況に対し、教員側からは「教員と生徒別々の便所」、「屋根や戸のある便所」が望ましい、といった要望が挙げられた。

## 9 . コミュニティによる学校施設利用

コミュニティ住民が学校施設を利用することはあまり一般的ではない、という状況が確認された。いくつかの学校で、施設を選挙の投票所として、また予防接種や住民の会議用の場所として使う、との回答も得られたが、成人教育や識字教育、ノンフォーマル教育の場所として利用するなどといった回答は少なかった。

各コミュンには、通常、人民委員会の施設や、その他の集会所などが存在しており、学校施設を使わずとも、こうした施設や場所が利用されている。また、成人教育および識字教育に関しては、35 歳以下の成人のほぼ 100% が識字であること、また識字教育の実施にあたっては、初等ないし中等教育の教員が、非識字者の家を戸別に訪問し、教育を行うことが日常的に行われていることから、初等教育施設がこうした成人教育の目的に使われることも少ない、と考えられる。

## 10 . 維持管理

### 掃除

学校施設の掃除は、生徒を中心として行われている学校が多かったものの、なかには外部の清掃業者に任せている学校も都市部を中心に存在した。掃除の頻度は 1 日 2 ~ 3 回であり、教室は稲の箒、便所は竹の箒を使って行われることが一般的である。掃除用具の保管場所については、教室用は教室の隅に置かれ、便所用は便所近辺の適当な場所に置かれていることが多い。これら掃除用具保管のためのキャビネットは特に設けられていない。また教室用の箒については、生徒が当番のときに、自宅から持参するようにしている学校も少なからずあった。

### 損壊部分の修復

学校施設の修復費用は、通常、学校施設の建設・維持管理費として人民委員会が集めている基金のなかから拠出されている。建設・維持管理費は、各校によりその費用が異なっており、生徒 1 人あたりおおよそ 3 ~ 80,000 ドン / 年となっており、人民委員会はコミュンで集まった分を基金としてプールし、各校からの要請に応じて、施設建設ないし補修、維持管理のための資金を拠出することとしている。

こうした人民委員会の基金による維持管理に加え、学校によっては、親や住民による校庭の手入れや机や椅子の修復、壁のペンキ塗り替えといったボランティア労働を奨励しているところも存在した。



## 1 1 . 仕様

### 黒板

教具・教材のなかに、磁石を使ったカードが少なからずあり、黒板がマグネティック仕様となっていないために、A3 サイズのマグネティックボードを借り出し、授業に用いている状況がうかがわれた。マグネティック仕様の黒板を使用している学校も 1 校確認された (BG9\_Hong Thai)。

### 机・椅子

ヴ国においては、昼食後の昼寝の習慣があり、全日制を取り入れている一部の学校では、給食後の昼寝の時間を「昼休み」の時間帯に設けている。昼寝の場所は通常、教室であり、机を組み合わせるによりベッドを作り、そこに寝る (睡眠室を特別に設けている学校もある : PT-5 Det) 。そのため、軽量とはいえども、机が昼寝用のベッドとして使われる可能性も十分あることから、それは 6 ~ 10 歳児の体重に耐えうる強度が保障されなくてはならない。

### 教員室

教員室の机は、大きな机がよく、その机には各教員用の引き出し (鍵つき) がついていると保管上よい、との意見が挙げられた。

## ワークショップ参加者

省名	学校番号	学校名	DOET	BOET	校長	副校長	教員	職員	父母会代表	共産党員	コミュニティ 人民委員会	村人民委員会	Land Management 役場	地域住民 (村長等)	警察	女性同盟	青年同盟	労働組合	他小学校校長	合計
Bac Giang	BG-8	Dong Lo 2	2	1	1	1	5		13		3	4	1	7	1	1				40
	BG-8S	Dong Lo 2	2	1	1		1		5		2	4	1	1		1				19
	BG-9	Hong Thai	2	2		1		5	11			2		8						31
	BG-10	Nam Hong	1	1	1	1	6	1	1		1	13		4		1				31
Thai Nguyen	TN-1	La Hien	3	2	1	2	9		20		2	5		7	1	1		1		54
	TN-9	Doi Can	3			2	4		2								1			12
	TN-16	Hong Tien	3		1	2	5	1	9			6		2					2	31
Phu Tho	PT-1	Hy Cuong	3	2	1	1	12		7	1	4									31
	PT-5	Det	3		1	2	5	1	14		1									27
	PT-17	Ngoc Quan	4	2	1	1	8		16			11				1				44
Tuyen Quang	TQ-3	Bac Muc	2	1	1	1	14		1		1									22
	TQ-6	Phan Thie	2		1	1	4													8
	TQ-9	Y La	2		1	1	3	1	2	2	1	2		2		1	1			19
	TQ-11	Yen Huong	2	2	1		6	1		1	1									14
	TQ-15	Tan Yen	2		1	1	5		12		4			10						35

## ワークショップ実施風景

